

サヨリ

分類：ダツ目 サヨリ科
 学名：*Hemiramphus Sajori*
 英名：Halfbeak

本州中部以南の温帯から熱帯海域の沿岸の内湾や河口に生息し、春から夏にかけて藻場で産卵する。卵は直径3mm位の大きさで、4～5本の短い粘着糸とこの反対側には長く太い粘着糸とがあって海藻にからみつく。下顎は口嘴状に延び、この先端は紅色で、上顎はさほど長くない。鱗は粗く大きい。産卵期には雌の方が大きい。雄は1～2年で成熟するが、雌は2年を要する。腹腔(腹の内側)は黒く、ハラグロとも呼ぶ。動物性プランクトンを捕食する。旬は春から秋にかけてで、寿司種、刺身として上品且つまた美味で、高級魚である。



タイセイヨウサヨリ 1975



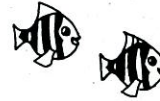
同みほん切手 1975



1977



1979



ムネエソ

分類：ニシン目 サケ亜目 ムネエソ科
 学名：各項に記載
 英名：Hatchet fish

熱帯から温帯にかけての水深1,000～2,000mの深海に生息し、体長10cm以下の深海魚で、夜間は海面に浮上し、海辺に打寄せられることもある。体長に比して頭部が大きく、且つまた体高が高いため短く見え側扁している。口は大きく下顎に対して垂直に裂け、深海での少い獲物を見つけたとき確実に捕食できるよう、常に開いている。体色は銀色味をおび、両眼の間隔は狭く近接し上方に突出する。頭部と腹部には緑色の光を発する発光器があって、レンズ、フィルター、反射膜などをもち複雑な構造をしている。水深1,000m、水压100気圧、水温5℃の暗黒の海をさまよえるムネエソは、体も骨もやわらかく、よく高圧に耐えて、餌料の乏しい環境のもと、無駄なエネルギーを消費することなく、ひっそりと生きていることと考えられる。



テンガンムネエソ
Argyropelecus gigas



ムネエソの一種
Caulolepis longidens

